

住み慣れた地域で自分らしい生活続けるために

『地域包括ケアシステム』（概要版）

1 高齢者を取り巻く状況

2025（平成37）年には、団塊の世代が75歳を超え、今後、医療や介護が必要な方、一人暮らし高齢者や高齢夫婦世帯、さらには認知症高齢者の増加などが見込まれています。

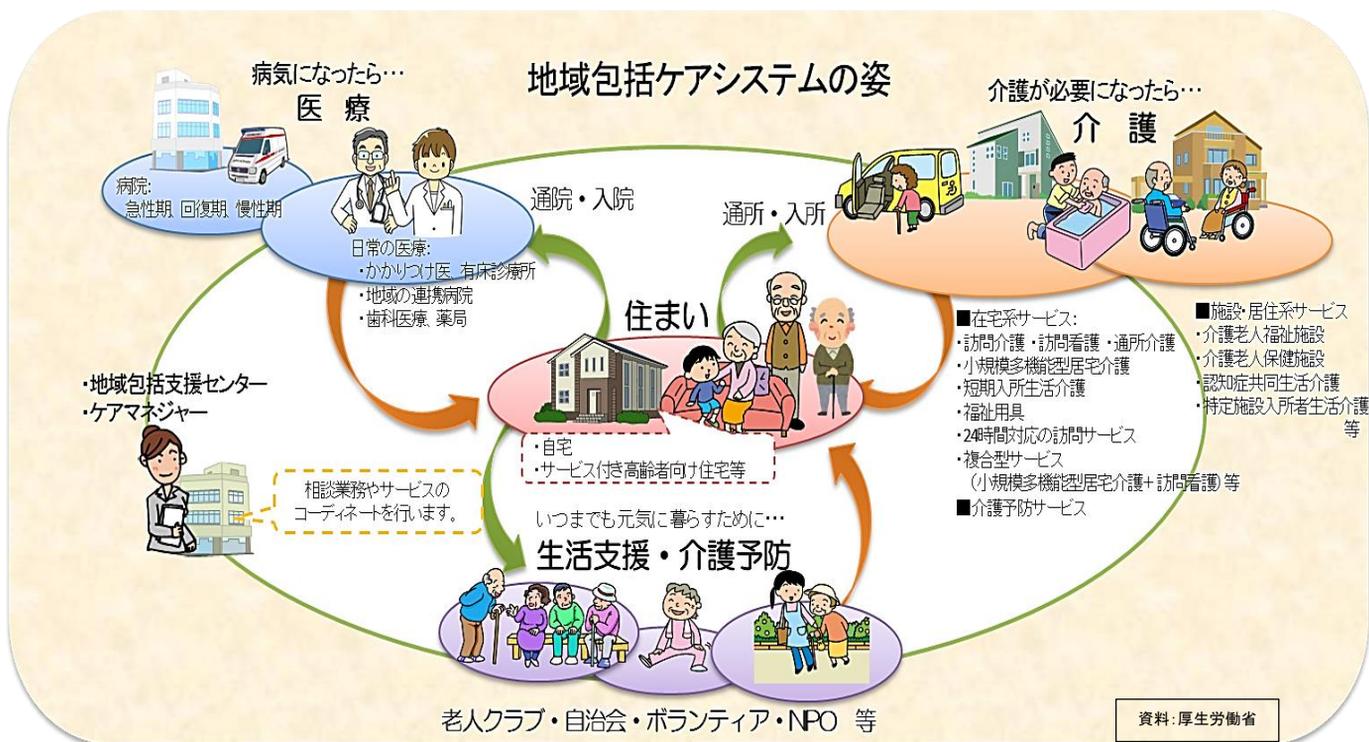
加えて、人口減少や少子高齢化の進展による担い手不足など、これからの高齢化社会はさまざまな課題を抱えています。

こうした状況に対応するため、厚生労働省では、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（**地域包括ケアシステム**）の構築を推進しています。

2 地域包括ケアシステム

地域包括ケアシステムは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、「**住まい**」「**医療**」「**介護**」「**生活支援・介護予防**」が、一体的に提供される仕組みのことです。

在宅医療・介護の連携、生活支援サービスの充実、高齢者の社会参加などさまざまな要素（**自助・互助・共助・公助**）が連携し、高齢者の生活をバランス良く支える体制づくりを目指します。



高齢化の進捗状況や生活環境などは、地域によって異なるため、地域包括ケアシステムは、各市区町村が地域の特性に応じて作り上げていくこととなります。

地域の特性を活かした取組や、生活支援や介護予防サービスの創出による地域の支え合いの体制づくりの取組については、「**生活支援体制整備事業（協議体・生活支援コーディネーター）**」をご覧ください。